

# エッチュウバイの資源管理に関する研究 2 ( 隠岐地区 )

( 漁獲管理計画策定事業 )

道根 淳・角 敬\*

## 1 研究目的

本県隠岐島周辺を漁場とする隠岐地区ばいかご漁業の実態および当海域に分布するエッチュウバイの資源・生態を明らかにし、漁業資源の有効利用を目的とした資源管理指針の作成ならびに漁業情報の提供を行なう。これにより本資源の維持・増大と漁業経営の安定化を図る。

## 2 研究方法

### (1) 漁業実態調査

解析に用いた資料は、漁獲情報管理システムによる統計資料、西郷漁協漁獲統計資料および各漁業者に漁具設置位置記入依頼を行なっている操業日誌である。これらの資料をもとに、漁獲動向、エッチュウバイの価格動向および漁場利用について検討を行なった。

### (2) 資源生態調査

西郷漁協に水揚げされる漁獲物の殻高と銘柄別重量を測定し、測定資料と銘柄別箱数から漁獲物の殻高組成を推定した。

## 3 研究結果

### (1) 漁獲動向

- 隠岐地区では 4 経営体がバイかご漁業を行なっている。
- 近年の総漁獲量は約 400 トン、総水揚げ金額は約 4 億円であり、このうちエッチュウバイの割合は量・金額とも 85% 前後である。最近のエッチュウバイの漁獲量は 360t 前後、水揚金額は 3 億 5 千万円前後で推移している。また 1 航海当たりの漁獲量は 0.9 トン、水揚金額は 85 万円であり、比較的安定している。
- 近年、漁獲サイズの小型化が目立ち、銘柄大(殻長 100mm 以上)の割合が減少し、逆に銘柄豆(殻長 80mm 以下)の割合が増加している。
- 利用している漁場は、隠岐海峡を除く隠岐島周辺の水深 195 ~ 500m までの海域であり、東側は東経 134 ° までおよぶ。経営体ごとに利用する漁場が異なっており、また季節ごとに漁場を変えて操業する傾向にある。

### (2) 資源状態

- 漁獲物の組成は、漁船ごとおよび同一船でも季節的な変化が大きい。漁獲物は石見地区に水揚げされるものに比べ、大型貝が多く、小型貝の割合は低い。
- 1 航海当たりの漁獲個数は約 12,800 個 ( 5,804 ~ 20,639 個 ) である。

## 4 研究成果

- 調査結果をもとに、自主的な資源管理方を検討することとなった。

## 5 文献

- 1) 村山達朗・為石起司：島根県水産試験場事業報告書 ( 平成 9 年度 ), 86 ~ 87 ( 1999 ) .

---

\* 隠岐支庁水産局